

平成31年度のくらしのサポーター養成研修について

くらしのサポーターの養成状況等について

1 くらしのサポーターの養成状況

開催年度	実施時期	修了者数	登録者数
平成28年度	1クール目	36人	15人
	2クール目	27人	19人
	計(a)	63人	34人
平成29年度	1クール目	19人	18人
	2クール目	41人	41人
	3クール目	15人	9人
	計(b)	75人	68人
平成30年度	1クール目	39人	31人
	2クール目	16人	16人
	3クール目	10人	10人
	計(c)	65人	57人
合計(a+b+c)		203人	159人

2 平成29年度くらしのサポーター活動状況

活動内容	活動延件数
個人ボランティアとして活動（話相手、趣味活動の披露、地域の見守り活動、ガイドヘルパー等）	33件
介護保険事業所・施設でのボランティア活動（話相手、レクリエーション活動補助、施設内移動の補助等）	24件
ボランティア団体等でのボランティア活動（イベントの補助、買い物支援、ボランティア団体の運営等）	13件
計	70件

「助け合い」とは・・・

“助け合い”の実施主体は誰？

“助け合い”の実施主体は、「**住民主体**」である

だから・・・

住民は、



市町村の下請け

ではなく・・・

活動内容を決める

市町村は、



活動内容を決める

ではなく・・・

**住民団体を
側面的に支援する**

平成31年度のくらしのサポーター養成研修について

1 事業の趣旨（予算説明資料抜粋）

地域における住民主体の助け合い活動の中心となるキーパーソン
および担い手として、くらしのサポーターを養成するとともに、地
域の活動の場へつなげることで、高齢者の社会参加につながる居場
所※づくりなど、住民主体の助け合い活動の創出・充実を図ること
を目的とする。

※居場所とは、地域に住む多世代の人々が自由に参加する場所。そこでの人との関わりによって、生きる意欲が高まり、それぞれの間の絆が生まれるとともに、それが様々な助け合いに発展しやすい活動。

平成31年度のくらしのサポーター養成研修について

2 事業の概要（予算説明資料抜粋）

- (1) 地域における住民主体の助け合い活動の入門的な研修として、養成研修を実施（講義や見学を中心に1クール全5回・40人程度養成）
- (2) 自ら地域で助け合い活動が実践できるリーダーの養成および共に地域で活動する仲間（グループ）づくりの場として、養成研修修了者を対象としてステップアップ研修を実施
- (3) くらしのサポーターの活動レベルに応じた地域の活動の場とのマッチング
- (4) 函館市ボランティアセンター（社協設置）や福祉人材バンク（社協受託事業）を核として、登録者が訪問型サービスAやボランティアポイントへの従事など、様々な地域活動に取り組めるための情報発信、活動のコーディネート（通年・随時）

平成31年度のくらしのサポーター養成研修について

【参考】くらしのサポーターの活動イメージ（予算説明資料抜粋）

活動レベル	活動例	期待する効果	研修の種類
① お手伝い活動レベル ・ 既にある住民主体の活動をサポートする	既にある住民主体の活動をしている団体（サークルやサロン、居場所、町会活動など）へ、継続的な運営の補助や単発的な行事の手伝いなど、サポートを行う。	地域で活動できる人材の確保 既にある住民主体の活動の継続・充実	養成研修 （入門的研修）
② これから活動レベル ・ これから地域で活動する場を自ら見出し創出する	第2層協議体へ参画し、住民主体の活動を共に協議するとともに、自らの具体的な活動に発展させる。		ステップアップ研修 （リーダー養成研修 および仲間づくり）
③ いますぐ活動レベル ・ 自ら地域で活動する場を創出する	居場所やサロン、地域食堂などの住民主体の助け合い活動を創出する。	新たな住民主体の助け合い活動の創出	